

2021年 キリスト教一致祈禱週間

1月18日～25日



わたしの愛にとどまりなさい。
そうすれば、あなたがたは豊かに実を結ぶ。
(ヨハネ 15・5-9 参照)

日本キリスト教協議会
カトリック中央協議会

この小冊子は、世界教会協議会（WCC）と、教皇庁キリスト教一致推進評議会が共同発行した資料をもとに作られました。年間を通じて、合同の集会などご利用ください。

聖書本文の引用は、『聖書 新共同訳』（日本聖書協会、2000年）を使用しています。

目 次

キリスト教一致祈祷週間を準備する方々へ……………	2
2021 年の聖書テキスト ……………	4
2021 年のテーマの解説 ……………	6
2021 年キリスト教一致祈祷週間の資料の準備 ……………	12
エキュメニカル礼拝……………	14
はじめに……………	14
礼拝式文……………	17
八日間の聖書の黙想と祈り……………	32
グランシャン共同体と修道生活におけるエキュメニズム活動……………	48
キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧 (1968 - 2021)……………	55
キリスト教一致祈祷週間に関する歴史上の重要な年……………	58

キリスト教一致祈禱週間を準備する方々へ

一致を求めて——年間を通じて

キリスト教一致祈禱週間は、北半球では、伝統的に1月18日から25日に行われます。この日程は、1908年にポール・ワトソンによって提案されたものですが、これは当時祝われていた聖ペトロの祝日と聖パウロの祝日の間の期間で、日付そのものに象徴的な意味があります。しかし、南半球では、1月は休暇の季節なので、他の日程、たとえばペンテコステ（聖霊降臨の主日）前後に変更する地方もあります(1926年に信仰職制運動により提案された日程)。この日も、教会の一致のために象徴的で意義深い日です。

日程については柔軟に対応できることをご留意ください。諸教派間ですでに実現している交わりの状況を伝え、キリストの御心である完全な一致を求めてともに祈るために、この資料が年間を通じて用いられるよう願っています。

各地の状況に合わせてテキストを用いる

この資料は、可能な場合はいつでも、各地域の状況に合わせて適用できるように作成されています。その場合、各地の典礼や礼拝の様式、社会的・文化的背景全体が考慮されなければなりません。そのような適用は、理想としては、エキュメニカルな形で行われるべきです。いくつかの地域ではすでに、この資料を適用するためのエキュメニカルな体制が整っていますが、そうでない地域では、適用の必要性がきっかけとなって、そうした体制が築かれるよう願っています。

キリスト教一致祈禱週間資料の使い方

- * 教会やキリスト教共同体が、協力して一回の合同礼拝を行う場合には、「エキュメニカル礼拝式文」をそのまま使うことができます。
- * 教会やキリスト教共同体は、固有の礼拝にこの資料を組み入れて用いることができます。たとえば、「エキュメニカル礼拝式文」や「八日間の聖書

の黙想と祈り」、その他の祈りを、それぞれの状況に応じて用いることができます。

- * 一週間を通して一致祈祷週間の礼拝を毎日ささげる共同体は、その礼拝の資料として「八日間の聖書の黙想と祈り」を使うことができます。
- * キリスト教一致祈祷週間のテーマについての聖書研究を行いたい場合には、「八日間の聖書の黙想と祈り」に提示されている聖句や説明を基礎資料として使うことができます。また、日々のディスカッションは、共同祈願で締めくくることができます。
- * 一人で祈りたい人も、自分の祈りの意向に集中するためにこの資料を役立てることができます。世界中の人々がキリストの教会を目に見える形でさらに一致させるために祈っていること、その交わりの中に自分がいることを、各自が自覚できるようになるでしょう。

2021 年の聖書テキスト

ヨハネ 15・1 - 17

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながって
いながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶも
のはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話したこ
とばによって、あなたがたはすでに清くなっている。わたしにつながっていな
さい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながって
いなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたし
につながっていなければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あ
なたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につ
ながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは
何もできないからである。わたしにつながっていない人がいれば、枝のように
外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれて
しまう。あなたがたがわたしにつながっており、わたしのことばがあなたがた
の内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえら
れる。あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、
わたしの父は栄光をお受けになる。父がわたしを愛されたように、わたしもあ
なたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父のおきてを
守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしのおきてを守る
なら、わたしの愛にとどまっていることになる。これらのことを話したのは、
わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるため
である。

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたし
のおきてである。友のために自分のいのちを捨てること、これ以上に大きな愛
はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。
もはや、わたしはあなたがたをしもべとは呼ばない。しもべは主人が何をして

いるか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

2021年のテーマの解説

「わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば豊かな実を結ぶ」

(ヨハネ 15・5 - 9 参照)

2021年のキリスト教一致週間の資料は、グランシャン修道共同体¹によって準備されました。テーマは、「わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば豊かな実を結ぶ」です。ヨハネ福音書 15 章 1 節から 17 節に基づくこのテーマは、グランシャン共同体が召命としている、祈り、教会の和解と一致、そして人類という家族の和解と一致を表現しています。

1930年代、「モルジュの女性たち」というグループに属するスイス・フランス語圏の改革派のある女性たちは、沈黙がみことばを聞くためにいかに重要であるかを再発見しました。さらに彼女たちは、信仰生活をより豊かにするために黙想を再び実践し始めました。祈りをささげるために人々から離れて独りになられたキリストの模範に従ったのです。ヌシャテル湖畔の小さな町、グランシャンで定期的に開かれるようになった黙想会に外部の人々も参加するようになり、増えていく黙想参加者や来客を迎え入れ、祈るための場所が必要になりました。

今日、この共同体は、世代も、教派も、出身国や大陸も異なる 50 人のシスターによって構成されています。このような多様性にあって、シスターたちは自らの生き方を通して交わりを語っています。彼女たちは祈りの生活、共同体の生活、歓待の精神を忠実に守り続けています。人々は黙想や沈黙、いやしの時を求めて、あるいは生きる意味を追求するためにグランシャンを訪れます。シスターたちは、そのような訪問者やボランティアの人々と修道生活の恵みを分かち合っています。

共同体を最初に立ち上げたシスターたちは、キリスト教諸教派間の分裂とい

う痛みを味わいました。そのようなときに彼女たちを励ましたのが、キリスト教一致祈祷週間の創始者の一人、ポール・クチュリエ神父との親交です。ですから、キリスト教一致のために祈ることは、設立当初からこの共同体の生活の中心にありました。このようなキリスト教一致への献身は、グランシャン共同体の三つの柱である「祈り、共同生活、歓待」と共に、今回の資料の基調となっています。

神の愛のうちに留まることは自らと和解すること

フランス語で修道者 (moine 修道士 / moniale 修道女) を表すことばは、ギリシャ語の monos に由来します。これは単独、あるいは一つを意味します、わたしたちの思いも、からだも心も、一つであるどころか、しばしば散らされ、様々な方向へと引き裂かれています。修道者も自らが一つになり、キリストと結ばれることを目指します。イエスはわたしたちに語りかけておられます。「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている」(ヨハネ 15・4)。一つに結ばれた生活とは、自分自身を受け入れること、自分自身の過去と和解すること、そして受け継いできた歴史と和解することを前提としています。

イエスは弟子たちに、「わたしの愛にとどまりなさい」(ヨハネ 15・9) といわれます。イエスは御父の愛のうちにとどまっておられます(ヨハネ 15・10 参照)。そして、その愛をわたしたちと分かち合うことをひたすら望んでおられます。「わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである」(ヨハネ 15・15b)。キリストご自身であるぶどうの木にわたしたちが接ぎ木される時、父なる神は、わたしたちの農夫となられ、わたしたちが成長するように手入れをしてくださいます。これこそが、祈りのうちに起こることです。父なる神はわたしたちの生活の中心であり、わたしたちの人生に意味を与えてくださるかたです。神はわたしたちを切りそろえ、一つの木にしてくださいます。そうして、人類全体が父なる神に栄光を帰するのです。

キリストにつながるという内的な姿勢が身につくまでには、時間がかかります。成長するための場が必要です。生活に追われる中でそのことがおろそかにされたり、さまざまな妨害、雑音、用事、または人生における危機により脅かされたりするという事態も生じます。ヨーロッパが混乱のただ中であつた1938年に、ジュヌヴィエヴ・ミシュリ（後にこの共同体の初代指導者となるマザー・ジュヌヴィエヴ）が書きとどめたことばは、今日でも重要な意味もっています。

我々は今、困難かつ壮大な時代、自分たちの魂を守るものなど何もない危険な時代、完全に人間の手による急速な発展により生き物が一掃されそうに思える恐ろしい時代に生きている。……そして、この騒音とスピードの、思考を阻止する集団的狂気のうちに、我々の文明は滅び去るであろう。……霊的生活の完全な価値を知っている我々キリスト者は、非常に大きな責任を負っており、そのことを自覚しなければならない。そして、平穏がもたらす力を生み出し、平和の逃げ場をもうけ、沈黙のうちに人が創造的なみことばを探し求めるのに必要な場を立ち上げるために、一致団結して助け合わなければならない。これは生死にかかわることである。

キリストにつながり、実を結ぶ

「あなたがたが豊かに実を結ぶなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる」（ヨハネ 15・8 参照）。わたしたちは自分の力で実を結ぶことはできません。ぶどうの木から離れて実を結ぶことはできないのです。イエスのいのちという樹液がわたしたちのうちに行き渡り、それが実を結ばせるのです。ぶどうの木の枝としてつながれ、イエスの愛のうちにとどまるとき、イエスのいのちはわたしたちの内に行き渡ります。

イエスのことばに耳を傾けると、イエスのいのちがわたしたちに行き渡ります。イエスは、ご自分のことばをわたしたちのうちにとどまらせるように招いておられます（ヨハネ 15・7 参照）。そうすれば、望むことは何でもかなえ

られます。イエスのことばによって、わたしたちは実を結びます。わたしたちが願うのは、個人として、共同体として、教会全体として、キリストと一つになることです。それは、ご自分がわたしたちを愛したように、互いに愛し合いなさいと命じるキリストの教えを守るためです（ヨハネ 15・12 参照）。

すべての愛の源であるキリストの内にとどまれば、交わりの実が育つ

キリストとの交わりは、他者との交わりを求めます。6世紀のパレスチナの修道士、ガザのドロテウスはそのことを次のように説明しています。

地面に描かれた円を思い描いてください。コンパスによって描かれた円とその中心。円が世界で、中心は神だと思ってください。半径は人々のさまざまな生き方です。聖人たちが神に近づこうとして円の中心に向かって進むと、円の内側にその分だけ入り込み、互いの距離が縮まります。そして彼らが互いに近づけば近づくほど、神との距離も縮まります。逆方向にも同じことが起こることが分かります。神から離れようと中心から遠ざかります。神から遠く離れれば離れるほど、互いの距離が広がるのがはっきり分かります。互いが離れていけば、それだけ神から遠ざかるのです。

他者に近づくこと、同じ共同体で他者とともに生き、ときには自分たちとはまったく違う人たちとともに生きていくことは大変なことです。グランシャンのシスターたちはそのことをよく知っていました。そしてテゼ共同体のブラザー・ロジェの教えが大きな支えとなりました。「試練によって清められることなくして友情は存在しません。十字架なくして隣人への愛はありえません。十字架のみがわたしたちに、はかり知れない愛の深さを知らしめるのです」³。

キリスト者が分裂し、互いに離れて行こうとすることは、恥ずべきことです。それは神から離れて行くことも意味するからです。多くのキリスト者がそのような状況を憂い、イエスが祈っておられた一致の回復を、神に心から祈り求め

ています。一致を求めるキリストの祈りは、キリストのもとへ立ち返り、自分たちの多様性の豊かさを享受しながら互いに近づくよう招いています。

和解に向けた取り組みには、代償や犠牲が伴うことを、わたしたちは共同体の生活を通して学びます。わたしたちは、キリストの祈りに支えられています。キリストはご自身が神と一つであるように、わたしたちも一つになり、それにより世が信じるようになることを望まれたのです（ヨハネ 17・21 参照）。

キリストにつながっていれば、連帯とあかしの実が育つ

わたしたちキリスト者はキリストの愛のうちにとどまっていますが、それと同時に、解放される日を待ち望みながらうめいている被造物の中で生きています（ローマ 8 章参照）。この世界で、わたしたちは苦しみと紛争という悪を目の当たりにします。苦しむ人々と連帯することで、キリストの愛を自分たちのうちに行き渡らせることができます。わたしたちが兄弟姉妹を愛し、この世界で希望を育むとき、過越の神秘はわたしたちの中で実を結ぶのです。

霊性と連帯とは分かちがたくつながっています。キリストにつながっていれば、不正義と抑圧の構造に対抗するための、人類家族の兄弟姉妹であることを真に自覚するための、さらには、すべての被造物と敬意をもって交わるという新しい生き方を生み出すための、力と知恵を受けることができます。

グランシャンのシスターたちが毎朝ともに唱える生活規則の要約⁴は次のことばから始まります。「神が治めてくださるよう、祈り、働きましょう」。祈りと日常生活は二つの別々なことではなく、結びついているべきです。わたしたちが経験するすべてが、神との出会いとならなければならないのです。

2021 年キリスト教一致祈祷週間の 8 日間にあたって、以下の祈りの旅を提案いたします。

- 第1日： 神によって召される
「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(ヨハネ 15・16a)
- 第2日： 内的に成熟する
「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている」(ヨハネ 15・4a)
- 第3日： 一つのからだを形づくる
「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 15・12a)
- 第4日： とともに祈る
「もはや、わたしはあなたがたをしもべとは呼ばない。わたしはあなたがたを友と呼ぶ」(ヨハネ 15・15)
- 第5日： みことばによって変えていただく
「わたしの話したことばによって、あなたがたはすでに清くなっている」(ヨハネ 15・3)
- 第6日： 他者を受け入れる
「あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るように」(ヨハネ 15・16b)
- 第7日： 一致のうちに成長する
「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」(ヨハネ 15・5a)
- 第8日： すべての被造物と和解する
「わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためである」(ヨハネ 15・11)

2021 年キリスト教一致祈禱週間の資料の準備

2021 年キリスト教一致祈禱週間の資料を準備するために、教皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会協議会（WCC）信仰職制委員会から委託された国際チームは、9 月 15 日から 18 日にかけてグランシャン（スイスのヌーシャテル州アルーズ）で会議を行いました。世界教会協議会はグランシャン共同体に、2021 年キリスト教一致祈禱週間のテーマを選び、テキストの草案を作成するよう依頼しました。グランシャン共同体は一丸となって、数ヶ月をかけて草案を作成し、その草案が国際チームとの起草作業の土台となりました。この 9 月の会議では、グランシャン共同体の 4 人のシスターも国際チームのメンバーとともに作業を行いました。会議の議長は、信仰職制委員会のオデア・ベドロ・マテウス委員長とキリスト教一致推進評議会のアンソニー・キュレル神父が務めました。

グランシャン共同体は、さまざまな教派と国から集まったシスターによる修道共同体です。この共同体は 20 世紀前半に設立され、その当初からテゼ共同体、さらにはキリスト教一致祈禱週間の歴史に大きな影響を与えたポール・クチュリエ神父と親交がありました。今日、この共同体には約 50 人のシスターがいます。そして、全被造物への敬意のもと、キリスト者間、人類家族内の和解の道を模索しています。

選ばれたテーマは、「わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば豊かな実を結ぶ」（ヨハネ 15・5 - 9 参照）です。このテーマを通して彼女たちは、神の愛のうちに生きる観想生活の体験と知恵を伝え、祈りの実について語ります。それは、キリストにおいて兄弟姉妹である人々とさらに深く交わり、被造物全体とより強く連帯するということです。

国際チームのメンバー

- アン・ノエル・クレメント氏（キリスト教一致委員会）
- ピーター・コルウェル牧師（英国・アイルランド教会一致協議会副会長）
- アンソニー・キュレル神父（教皇庁キリスト教一致推進評議会）
- アニ・ガザラン・ドゥリシ博士（世界教会協議会、信仰職制委員会事務局、企画推進部）
- ヴィラグ・キング・メゼイ氏（世界教会協議会研修生）
- アナ・ランバルタ博士（ドイツ・ルーテル教会）
- シスター・レティシア・カンデラリオ・ロベス（ベルブム・デイ宣教会〔シンガポール〕）
- オダイア・ペドロツツ・マテウス博士（世界教会協議会信仰職制委員会、委員長）
- ジェイムス・プリージ神父（アトンメントのフランシスコ修道会、一致推進センター）
- ミキー・ローバーツ博士（世界教会協議会、霊性委員会、企画推進部）
- クレア・ワトキンス博士（ローハンプトン・ロンドン大学）

グランシャン修道共同体からの参加者

シスター・アンヌ・エマニュエル・ギ

シスター・ゲシーナ・ローバッフ

シスター・エンブラ・フィガーフォス

シスター・スベンヤ・ウィッチマン

世界教会協議会のアレクサンダー・フリーマン氏が事務面でサポートしました。

エキュメニカルな祭儀

はじめに

この祭儀には、グランシャンのシスターたちの祈りの様式が反映されています。この共同体の伝統では、聖務日課の中で通常夜間に唱えられる三つの時課——ベネディクト修道会ではときに「徹夜課」や「夜課」と呼ばれる——が、一つの晩課の中に組み込まれています。このキリスト教一致祈祷週間の祭儀も、グランシャン共同体で用いられている様式に倣い、3つの「徹夜課」によって構成されています。

それぞれの徹夜課が同じ形式をとります。聖書朗読、答唱、沈黙、そして共同祈願と続きます。どの徹夜課も、テーマに沿った、以下のような動作を伴います。それぞれの「徹夜課」は、グランシャン共同体のメンバーが作曲した「神の光」を歌って締めくくられます。

第一徹夜課では、全人的調和、キリストの愛にとどまることに焦点が当てられます。参加者は5分間沈黙するよう招かれます。この沈黙の時は、祭儀の中で繰り返し行われます。

第二徹夜課では、キリスト者の目に見える一致を再認識したいという願いが表れます。キリストの愛のもとに隣人の方を向き、互いに平和のしるしを交わします。

第三徹夜課は、すべての人々、すべての被造物との一致に向けて、わたしたちの心を開きます。ここでの動作は、冒頭で紹介したガザのドロテウスのことばに基づくものです。何人かで輪を作り、円の中心に向かいます。神(円の中心)に向かって進めば進むほど、互いの距離は縮まります。

これらの動作は、使われる場所や、参加者の教派によって、さまざまな形に演出することができます。以下の案内に従ってください。

- 会衆はそれぞれ、火のついていないろうソクをもつ。
- 主催者は、動作をスムーズに運ぶために、会衆の列を放射状にし、「円」を形作れるかどうか検討する。
- 大きなろうソク（例えば多くの教派で用いられる復活のろうソク）に火をつけて台に乗せ、その円の中心に置く。
- 異なる教派に属する6～8人が、中心のろうソクを円状に囲む。床に円を描いてもよいし、会衆が輪を描くように座ってもよい。
- その6～8人が、それぞれ火のついていない小さなろうソクをもち、会衆から見えるように高く掲げる。
- 動きながら唱える際（〇〇ページ参照）、各自が同じペースで輪の中心に向かって進む。
- 中心に達したら、中心のろうソクから自分のろうソクに火をつけ、もとの位置に戻り、会衆のろうソクに火を回す。
- 会衆のろうソクに火をつけている間、全員で「神の光」を歌う。
- 祭儀が終わるまで会衆のろうソクはつけたままにする。その場の状況に応じて可能であれば、火をつけたまま、行列して礼拝の場から外に出てもよい。

冒頭の連祷は読んでも歌ってもかまいませんが、できるだけ異なる二人が唱えます。詩編も同様に朗読することも歌うことも、あるいは徹夜課のテーマに沿った賛美歌に置き換えることもできます。共同祈願の応唱は、読んでも歌ってもかまいませんし、それ以外のやり方を考えてもいいでしょう。自由に祈るために、共同祈願の時間を長くすることもできます。グランシャンで用いられている連祷、共同祈願と応唱の楽譜が、〇〇～〇〇ページに掲載されています。

賛美歌は、グランシャン共同体のウェブサイトアクセスして聞くことができます。

www.grandchamp.org

彼女たちの毎日の共同の祈りもオンラインで視聴できます。

www.grandchamp.org/prier-avec-nous

祭 儀 式 文

「わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば豊かな実を結ぶ」

(ヨハネ 15・5 - 9 参照)

祈りへの招き

入祭唱

聖霊の助けを求める賛美歌 (地域ごとに選ぶ)

招きのことば

司 式 者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、いつも皆さんとともにありますように。

会 衆 また、あなたとともに。

朗読者 1 キリストにおいて兄弟姉妹である皆さん、2021年キリスト教一致祈祷週間のテーマは「わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば豊かな実を結ぶ」です。このテーマはスイスのグランシャーン共同体のシスターたちによって選ばれました。

朗読者 2 イエスが示してくださったように、わたしたちがイエスのもとに行き、イエスのうちにとどまることは、神の切なる望みです。イエスは、わたしたちが愛のうちにご自分と結ばれ、すべての人にいのちをもたらす実を結ぶようお願いしながら、辛抱強く待ってくださいます。わたしたちは「他者」との違いに直面するとき、自分たちを隔てるものだけに目を向け、自らのうちに閉じこもってしまう危険があります。それでも、キリストの呼びかけに耳を傾けましょう。キリストは、ご自分の愛のうちにとどまり、豊かな実を結ぶよう、わたしたちを招いておられます。

朗読者1 次の三つの祈りの時を通してわたしたちはキリストの招きを思い起こしながら、キリストの愛へと、わたしたちの生活の中心であるキリストへと向かいます。一致への道は、神とわたしたちとの親しい関係から始まるからです。他者との一致と和解を求める思いは、神の愛にとどまるときに強められます。自分たちとは異なる人たちに向けて、神はわたしたちの心を開いてください。これこそが大切な実り、わたしたちの中の、わたしたちの間の、そして世界中の分裂をいやすたまものです。

司式者 平和のうちに主に祈りましょう。
農夫としてわたしたちを育て、愛を注いでくださる主よ、あなたは、ぶどうの木につながれた一つひとつの枝、一人ひとりの人間の美しさに目を向けるよう招いておられます。
しかし、わたしたちは幾度となく、他者との違いを恐れてしまいます。
自分自身の中に閉じこもり、
あなたへの信頼は揺らぎ、
わたしたちの間に憎しみがつのります。

わたしたちのもとに来て、わたしたちの心を再びあなたに向けてください。

あなたのゆるしのうちに生きるものとしてください。

あなたのみ名をともにたたえることができますように。

賛美の連禱

会 衆 世界のただ中で賛美するようわたしたちを招いておられるあなたに、栄光がありますように。

朗読者1 世界とすべての人のうちにあって、あなたをたたえて歌います。

朗読者2 被造物とすべて生き物のうちにあって、あなたをたたえて歌います。

会 衆 世界のただ中で賛美するようわたしたちを招いておられるあなたに、栄光がありますように。

朗読者1 苦しみと悲しみのうちにあって、あなたをたたえて歌います。

朗読者2 約束と成功のうちにあって、あなたをたたえて歌います。

会 衆 世界のただ中で賛美するようわたしたちを招いておられるあなたに、栄光がありますように。

朗読者1 紛争と誤解のあるところで、あなたをたたえて歌います。

朗読者2 出会いと和解のあるところで、あなたをたたえて歌います。

会 衆 世界のただ中で賛美するようわたしたちを招いておられるあなたに、栄光がありますように。

朗読者1 不和と分断のうちにあって、あなたをたたえて歌います。

朗読者2 生と死、新しい天と地の誕生のうちにあって、あなたをたたえて歌います。

会 衆 世界のただ中で賛美するようわたしたちを招いておられるあなたに、栄光がありますように。

第一徹夜課——キリストとつながる：全人的調和

詩編 103 編

聖書朗読 ヨハネによる福音書 15・1 - 17

答唱 ウビ カリタス (〇〇ページ)

短い沈黙 (約 1 分)

共同祈願

朗読者 愛の神よ、あなたはキリストを通していわれます。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。」あなたはわたしたちを探してください。そして、あなたの友情を受け入れ、その愛のうちにとどまるよう招いておられます。わたしたちがあなたの招きにより深くこたえ、より完全なのちのうちに成長するよう導いてください。

会衆 わたしたちの心の喜びは神のうちに。(歌う場合は〇〇ページ)

朗読者 いのちの神よ、あなたは、世界のただ中でわたしたちがあなたを賛美し、恵みのたまものとして互いを受け入れるよう呼びかけておられます。一人ひとりに注がれるあなたの愛のまなざしにより、わたしたちが心を開き、互いをありのままの姿で受け入れることができますように。

会衆 わたしたちの心の喜びは神のうちに。

朗読者 わたしたちをお集めになる神よ、あなたは御子イエスのうちにわたしたちを一つにし、一本のぶどうの木にしてください。教会の集いやエキュメニカルな集いにおいて、あなたの愛の霊がわたしたちの内にとどまりますように。わたしたちが喜んであなたをともに賛美することができますように。

会衆 わたしたちの心の喜びは神のうちに。

朗 読 者 唯一のぶどう園である神よ、あなたはわたしたちが、ことごと
行いすべてにおいて、ご自分の愛にとどまるよう呼びかけてお
られます。あなたの優しい愛に触れ、家庭や職場でその愛を映
し出すことができますように。対立をなくし、緊張を解く道を
切り開くことができますように。

会 衆 わたしたちの心の喜びは神のうちに。

沈黙する

朗 読 者 わたしたちはよく、祈りは自分がすることであり、自分自身の
行為だと考えてしまいます。しかし、これからしばらくの間、
沈黙のうちに身を置き、あらゆる雑音、日々の煩いや考えから
離れましょう。その沈黙においては、神が働いておられます。
わたしたちは、ひたすら神の愛にとどまり、神のうちに安らぐ
よう招かれています。

沈黙（約5分）

賛美歌 「神の光」（〇〇ページ）

第二徹夜課——キリスト者の目に見える一致

詩編 85 編

聖書朗読 一コリント 1・10 - 13a

答唱 「主はおひとり、信仰は一つ、洗礼は一つ」(〇〇ページ)

短い沈黙 (約 1 分)

共同祈願

朗読者 聖霊よ、あなたはあらゆる場所に教会を立て、また刷新してください。わたしたちのもとに来てください。そして、受難の前夜に主イエスが御父に祈られた、「すべての人を一つにしてください。そうすれば、信じるようになります」ということばを、わたしたちの心に静かに語りかけてください。

会衆 キリエ エレイソン (主よ、あわれんでください)。

朗読者 平和の君なる主イエス、あなたの愛の火をわたしたちのうちにともしてください。それにより、教会の中にある疑い、さげすみ、誤解がなくなりますように。そして、わたしたちを隔てる壁が取り壊されますように。

会衆 キリエ エレイソン (主よ、あわれんでください)。

朗読者 慰め主なる聖霊よ、ゆるしと和解に向けてわたしたちの心を開き、さまようわたしたちを立ち返らせてください。

会衆 キリエ エレイソン (主よ、あわれんでください)。

朗読者 柔和で謙遜なる主イエス、あなたの恵みをいつも感謝のうちに受け入れることができるよう、心の貧しさをお与えください。

会衆 キリエ エレイソン (主よ、あわれんでください)。

朗 読 者 聖霊よ、あなたは福音に忠実であるがゆえに迫害されている男性、女性、子どもをお見捨てになりません。迫害されている人々に力と勇気をお与えください。そして彼らを助ける人をお支えください。

会 衆 キリエ エレイソン（主よ、あわれんでください）。

平和のあいさつを交わす

朗 読 者 主はわたしたちに一致を呼びかけておられます。そして、ご自分の平和を与え、それを分かち合うように招いておられます。隣の人と平和のあいさつを交わしましょう。

（それぞれの習慣にしたがって、参加者は近くの人と平和のあいさつを交わす。）

賛美歌 「神の光」（〇〇ページ）

第三徹夜課——すべての民と被造物の一致

詩編 96 編

聖書朗読 黙示録 7・9 - 12

答唱 「あなたはすべてを超越しておられる」(〇〇ページ)

説教(任意)

短い沈黙(約1分)

共同祈願

朗読者 いのちの神よ、あなたはすべての人をご自分にかたどり、ご自分の似姿としてお造りになりました。さまざまな文化、信仰表現、伝統、民族性をたまものとして与えてくださるあなたをたたえて歌います。人種、階級、性、宗教、そして自分たちとは異なる人への恐れに根差す不正義と憎しみに、つねに立ち向かう勇気をお与えください。

会衆 平和の神、愛の神、わたしたちの希望はあなたのうちに。
(歌う場合は〇〇ページ参照)

朗読者 あわれみ深い神よ、あなたは、キリストを通して、わたしたちがあなたのうちにあって一つであることを示してくださいました。そのたまものを、この世界で用いるすべをお教えてください。世界中のあらゆる信仰をもつ人が、互いに耳を傾け合い、平和のうちに生きることができますように。

会衆 平和の神、愛の神、わたしたちの希望はあなたのうちに。

朗読者 イエスよ、あなたはこの世に来られ、わたしたちと同じまことの人間とされました。あなたは、さまざまな苦しみにあ
る人々が、困難のうちに生活していることをご存じです。い

つくしみ深い霊に促されて、わたしたちが自分の時間、生き方、持ち物を困窮するすべての人と分かち合うことができますように。

会 衆 平和の神、愛の神、わたしたちの希望はあなたのうちに。

朗 読 者 聖霊よ、あなたは傷ついた被造物の怒りの声と、気候変動によってすでに苦しんでいる人々の叫びを聞いておられます。わたしたちを新しい生き方に導いてください。あなたの被造物の一つとして調和のうちに生きるすべを学ぶことができますように。

会 衆 平和の神、愛の神、わたしたちの希望はあなたのうちに。

中心、そして世界に向かって進む（ガザのドロテウスのことばの導きのもとに）

朗 読 者 わたしたちは、いやしと和解をもたらす神の愛のために働くよう召されています。その働きは、まことのぶどうの木であるイエス・キリストの枝として、神とつながっていなければ実を結びません。神に近づけば近づくほど、わたしたちも互いに近づきます。

地面に描かれた円を想像してください。その円は世界を表します。

（指名された人々が立ち上がり、中心にあるロウソクの周りに円を作る。）

朗 読 者 円の中心は神を、その中心に至る道は人それぞれの歩みを表しています。この世に生きる人が神に近づきたいと願うとき、その人は円の中心に向かって歩いています。

(円の中心に向かって数歩進む。)

朗読者 円の中心に、神に近づけば近づくほど、互いの距離は縮まります。
そして、互いの距離が縮まるほど、

(ともに中心にさらに近づく。)

朗読者 神に近づいていきます。

(円の中心に着いたら、手にしていたろうソクに火をつける。円の中心にともに立ち、しばらく沈黙のうちに祈る。)

短い沈黙 (約1分)

主の祈り

朗読者 主イエスが教えてくださった祈りをともに唱えましょう。

会衆 「天におられる…」

賛美歌 「神の光」(〇〇ページ)

(火のついたろうソクを持っている人は賛美歌が歌われている間に席に戻り、ろうソクの火を会衆に渡す。)

朗読者 霊性と連帯は分かちがたく結ばれています。祈りと動作も同様です。キリストにつながっていれば、あらゆる不正義と抑圧に立ち向かう勇気と知恵の霊が注がれます。ともに唱えましょう。

会 衆 神が治めてくださるよう祈り、働きましょう。
今日の働きと休息のうちに、みことばが息づきますように。
すべてにおいて内なる沈黙を保ち、
キリストとつながることができますように。
真福八端の精神、喜び、単純さ、あわれみに満たされますように。
(グランシャン共同体のシスターが日々唱えていることば)

祝福

司 式 者 一つになりなさい。そうすれば世は信じるようになります。キリストの愛のうちにとどまり、世に出て行って愛の実を結びなさい。

会 衆 希望の神が、信仰におけるあらゆる喜びと平和でわたしたちを満たしてくださいますように。聖霊の力により、わたしたちが希望に包まれますように。父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。

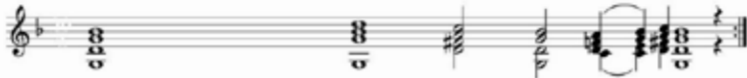
賛美歌（地域ごとに選ぶ）

追加資料*

1. 賛美の連祷「あなたは呼びかけてくださる」

T: Esclie 62.7

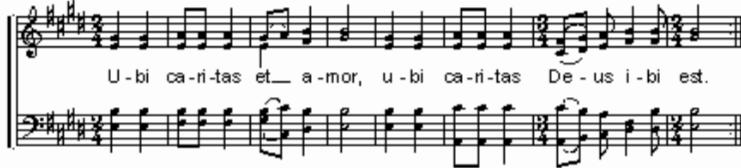
M: Gondchamp



Toi qui nous appelles à être lou-ange au mi-lieu de la terre : Gloi-re à Toi !

2. 第一徹夜課「ウビ カリタス」(朗読後の応唱〔ヨハネ 15・1 - 17〕)

♩ = 58



U-bi ca-ri-tas et a-mor, u-bi ca-ri-tas De-us i-bi est.

♪ Where there is char-i-ty, self-less love, Where there is char-i-ty, God—is tru-ly there. / Ten, kur gai-les-tis ir mei-lé, ten, kur gai-les-tis, Die-vasten y-ra. /
いつくしみあいの あるところか-みとみに

3. 第一徹夜課「わたしたちの心の喜び」(共同祈願の応唱)

M+T: Grandchamp

V+R: La joie de no - tre coeur est en Dieu.

4. 各徹夜課の最後「神の光」

Lumière de Dieu

T+M: Grandchamp

1. Lu miè - re de Dieu, in - on - de la ter - re,
 2. Komm, göt - li - ches Licht, er - leuch - te die Er - de,
 3. Come light, light of God, give light to cre - a - tion,
 4. O god - de - lyk licht kom on - der ons wo - men,
 5. O luz do Senh - or que vens so - bre a ter - ra
 6. Kom, Gud, med ditt lys, och ge - nom - lys vär - den,
 7. Za - plav ce - lou zem, svě - tlo Bo - ži tvá - ře,
 8. Mwa - nga - za wa Mungu, u - ja - za un - do - go,

1. vi - si - te nos coeurs et de - meure a - vec nous.
 2. er - full' un - sre Her - zen, nimm Woh - nung in uns.
 3. en - light - en our hearts and re - main with your world.
 4. doer - dring de - ze aar - de, daal neer in ons hart.
 5. in - on - da meu ser, per - ma - ne - ce em nós.
 6. och full vä - ra hjär - tan, med när - va - ran din.
 7. vej - di do srd - ci a zř - stá - vej u nás.
 8. tembe - le - a miyo yetu, na u - ka - e na - si.

5. 第二徹夜課「主はおひとり」(朗読後の応唱〔一コリント1・10 - 13〕)

T : Eph. 4
M : J. Berthier

There is one Lord one faith, one bap - ti - sm ;
there is one God who is Fa - ther of all.

*Un seul Seigneur, une seule foi, un seul baptême,
un seul Dieu qui est Père de tous.*

6. 第三徹夜課「すべてを超越しておられるあなた」
(朗読後〔黙示録7・9 - 12〕)

♩ - 66

O toi, l'au-de-là de tout, quel es-prit peut te sai-sir? Tous les
ê-tres te cé-lè-brent, le dé-sir de tous a-spi-re vers toi. O

(You who are beyond all things, what mind can grasp you? All that lives celebrates you; the desire of all reaches out towards you. / Oh tú, el más allá de todo, ¿qué espíritu puede comprenderte? Todos los seres te celebran, el deseo de todos aspira a ti. / Tu che sei oltre ogni cosa, chi potrà mai afferrarti? Ogni creatura ti onora, verso te i desiderii di tutti. / O du, der alles überragt, wie kann unser Verstand dich schauen? Jedes Wesen jubelt dir zu; allen gemeinsam ist die Sehnsucht nach dir. / Tyś jest ponad wszystko, jakież duch Cię ogarnie? Wszystkie stworzenia wystawiają Ciebie, wszyscy Ciebie pragną. S. Grégoire de Nazianze)

Music: Taizé

© Ateliers et Presses de Taizé, Le Bourg, 71250 TAIZE, FRANCE

7. 第三徹夜課「平和の神、愛の神」(共同祈願の応唱)

The image shows a musical score for a hymn. It is written on a single staff in G major (one sharp) and 4/4 time. The melody is simple and homophonic. The lyrics are in French: "Dieu de paix, Dieu d'amour, en toi notre espérance." The word "espérance" is hyphenated as "éspan - ce." There is a triplet of eighth notes over the word "éspan". The piece ends with a double bar line.

Dieu de paix, Dieu d'amour, en toi notre éspan - ce.

八日間の聖書の黙想と祈り

第1日

神によって召される

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(ヨハネ 15・16a)

創世記 12・1 - 4 アブラハムの召命

ヨハネ 1・35 - 51 最初の弟子たちの召命

黙想

旅の始まりは、人間と神との出会い、被造物と創造主との出会い、そして時間と永遠との出会いです。

アブラハムは「わたしが示す地に行きなさい」という声を聞きました。わたしたちもアブラハムのように、慣れ親しんだところを去り、自分たちの心の奥深くで神が準備してくださる場に行くよう招かれています。その途上で、神がはじめからわたしたちに望んでおられた、わたしたちの本当の姿に近づいていきます。そして、この呼びかけに従うことで、わたしたち自身が、自分の愛する人、隣人、そして世界に対する祝福となるのです。

神の愛はわたしたちを探し求めます。神はイエスにおいて人となられ、わたしたちはイエスのうちに、神のまなざしと出会います。ヨハネ福音書に記されているように、神の呼びかけは、わたしたちの生活の中で、さまざまなかたちで聞くことができます。神の愛によって触れられ、わたしたちは踏み出します。そしてその出会いのうちに、変容の道を歩みます。それは、つねに新たにされる、愛の結びつきの輝かしい始まりです。

「ある日あなたは理解するでしょう。神に対するあなたの『はい』が、あなたのもっとも深いところに、自ら気づくことなく、すでに記されていたことに。そしてあなたは、キリストに従って歩んでいくことを選んだのです。……キリストの現存に包まれた沈黙の中で、あなたはキリストの声を聴いたのです。『来て、わたしに従いなさい。心を休ませる場所をあなたに与えよう。』」(*The Sources of Taizé* (2000) p.52 [植松功訳、『テゼの源泉——これより大きな愛はない——』ブラザー・ロジェ、ドン・ボスコ社])

祈り

イエス・キリスト、
あなたはわたしたちを探し求めておられます。
そして、わたしたちの友となり、
より豊かないのちへ導くことを望んでおられます。
あなたの呼びかけに応えられるよう、信頼の恵みをお与えください。
わたしたちが変えられ、世に対するあなたのいつくしみのあかし人となる
ことができますように。

第2日

内的に成熟する

「わたしにつながっていなさい。

わたしもあなたがたにつながっている」(ヨハネ 15・4a)

エフェソ 3・14 - 21 わたしたちの心の内にキリストが住んでくださいますように。

ルカ 2・41 - 52 母はこれらのことをすべて心に納めていた。

黙想

イエスとの出会いは、イエスのもとにとどまり、イエスにつながりたいという思いを生じさせます。実が熟するときです。

まことの人となられたイエスは、わたしたちと同じように育ち、大人になりました。ユダヤ教の教えに従って質素な生活を送られました。人目につかず、特別なことは何も起こらなかったナザレでの生活の中で、イエスを養い育てたのは御父でした。

マリアは自らの人生とわが子の人生における神のわざを思いめぐらし、それらのことをすべて心に納めました。こうして少しずつ、マリアはイエスの神秘を受け入れていきました。

わたしたちがキリストの愛の深さを理解し、キリストにつながっていただき、わたしたちもキリストにつながるためには、全生涯にもわたる長い成熟期間が必要です。聖霊は、わたしたちには分からない方法で、わたしたちの心にキリストを宿らせてくださいます。祈り、みことばに耳を傾け、他者と分かち合い、そして理解したことを実践することによって、わたしたちの中に宿られるかたの存在を強めることができるのです。

「キリストはわたしたちの内のもっとも深いところに降りて来られます。……キリストは、思いと心の領域を貫き、わたしたちのからだに、わたしたちの内のもっとも深いところにまで来てくださり、いつの日かわたしたちも、深いあわれみを受けられるようにしておられます」(*The Sources of Taizé* (2000) p.134)。

祈り

聖霊よ、

わたしたちの中に現存されるキリストを受け入れ、

愛の神秘として大切にできるよう、

わたしたちの祈りを導いてください。

聖書朗読において照らし、

わたしたちを通して働いてください。

わたしたちの中であなたのたまものが着実に成長し、

豊かな実を結ぶことができますように。

第3日

一つのからだを形づくる

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」
(ヨハネ 15・12a)

コロサイ 3・12 - 17

あわれみの心を身に着けなさい。

ヨハネ 13・1 - 15、34 - 35

互いに愛し合いなさい。

黙想

イエスはご自分の死の前夜、ひざまずいて弟子たちの足を洗われました。ともに生きることの難しさと、ゆるし、仕え合うことの大切さを知っておられたのです。イエスはペトロに言われました。「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」。

ペトロは、自分の足元にひざまずくイエスを受け入れました。そしてキリストに洗っていただき、その謙虚さと優しさに心打たれたのです。後に、彼はイエスの模範にならい、初代教会で信者の共同体に仕えることとなります。

イエスは、樹液がぶどうの木の中を流れるように、いのちと愛がわたしたちの間を流れるよう望んでおられます。それによりキリスト者の共同体は、一つのからだとなるのです。しかし、これまでと同じように今日でも、ともに生きるのは容易なことではありません。わたしたちは幾度となく自らの限界に直面します。自分の共同体、小教区、家族の中の親しい人さえも愛せなくなるときがあります。人間関係が完全に壊れてしまうこともあります。

わたしたちは数々の新しい始まりを通して、キリストのうちにあわれみの心を身に着けるよう招かれています。神に愛されているという自覚は、自分の力と弱さをもって、互いに受け入れ合うようわたしたちを促します。そのとき、

キリストはわたしたちの間におられます。

「あなたは、ほとんど何も持たなくても、あの愛の交わり——キリストのからだ、すなわちその教会——の中に和解を造り出す者なのでしょうか。同じあこがれに支えられ、喜びなさい。あなたは、もはやひとりではありません。すべてのことにおいて、あなたは兄弟たちとともに前進していくのです。この兄弟たちとともに、あなたは共同体のたとえを生きるようにと呼び出されたのです」(*The Sources of Taizé* (2000) p.48 - 49 [植松功訳、『テゼの源泉——これより大きな愛はない——』ブラザー・ロジェ、ドン・ボスコ社])。

祈り

わたしたちの父である神よ、

あなたはキリストを通して、

また、わたしたちの兄弟姉妹を通して、

ご自分の愛を示してください。

相違があっても互いを受け入れ、ゆるすことができるよう、

わたしたちの心を開いてください。

一つのからだとして結ばれて生きることにより、

一人ひとりのたまものが輝き出ますように。

わたしたち皆が、生きておられるキリストの映しとなりますように。

第4日

ともに祈る

「もはや、わたしはあなたがたをしもべとは呼ばない。
……わたしはあなたがたを友と呼ぶ」(ヨハネ 15・15)

ローマ 8・26 - 27 霊は弱いわたしたちを助けてくださいます。

ルカ 11・1 - 4 主よ、わたしたちに祈りを教えてください。

黙想

神はわたしたちとのかかわりに飢え渴いておられます。「どこにいるのか」と呼びかけ、アダムを園で探されたように、神はわたしたちを探しておられます(創世記 3・9)。

キリストのうちに、神はわたしたちに会いに来てくださいました。イエスは祈りのうちに日々を過ごされ、御父と固く結ばれ、ご自分が出会ったすべての人と弟子たちの友となりました。イエスは、もっとも大切にしておられるもの、つまりご自分の父であり、わたしたちの父でもある神との愛のきずなを、彼らに伝えました。イエスは弟子たちとともに、ユダヤ教の豊かな伝統のもとに詩編を歌いました。またあるときには、群衆から離れて一人で祈られました。

一人でも、他の人と一緒でも祈ることができます。驚き、不平、執り成し、感謝、あるいは単なる沈黙といった祈りもあります。祈りたいと思っても、祈れないと感じてしまうときもあります。イエスの方を向いて「教えてください」と言えば、道が開けます。祈りたいと望むこと自体がすでに祈りなのです。

グループとして集まることは、大きな支えとなります。賛歌、ことば、沈黙を通して交わりが生まれます。もし他の教派のキリスト者と一緒に祈るなら、どんな分裂も超越しておられる主からもたらされる友情の絆によって結ばれて

いることを、驚きのうちに実感するでしょう。かたちはさまざまであっても、同じ霊がわたしたちを一つに集めておられるのです。

「規則に従って共同の祈りをささげる中で、イエスの愛はわたしたちの内で育ちます。それはわたしたちの理解を超えることです。共同で祈れば、個人では祈らなくてもよいということではありません。それらの祈りは互いに支え合っています。イエス・キリストとの親しさの中で自分自身を新たにするために、毎日、わずかでも時間を割きましょう」

(「フランスとイギリスのテゼ共同体規則」 pp.19,21、Society for Promoting Christian Knowledge、イギリス)

祈り

主イエス、

あなたの全生涯は祈りであり、

御父との完全な調和です。

あなたの愛のみ旨に従って祈ることを、

あなたの霊を通してお教えてください。

全世界のキリスト者が執り成しと賛美のうちの一つとなり、

あなたの愛の国が訪れますように。

第5日

みことばによって変えていただく

「わたしの話したことばによって、あなたがたはすでに清くなっている」(ヨハネ 15・3)

申命記 30・11 - 20 みことばはあなたのごく近くにある。

マタイ 5・1 - 12 あなたがたは幸いである。

黙想

神のことばはわたしたちのすぐそばにあります。それは祝福であり、幸いを約束するものです。もしわたしたちが心を開くなら、神はわたしたちに語りかけ、わたしたちの中で死につつあるものを辛抱強く変えてくださいます。農夫がぶどうの木を剪定するように、真のいのちの成長を脅かすものを取り除いてくださいます。

聖書のテキストを、一人またはグループで定期的に黙想することにより、わたしたちの見方は変わります。多くのキリスト者が真福八端を毎日祈っています。真福八端は、まだ実現していない、隠されている幸い、苦しみを越えたところにある幸いを明らかにしてくれます。霊によって触れられる人は幸いです。その人たちはもはや、泣きたいのをこらえずに涙が流れるにまかせ、慰めを受けます。彼らが自分の内面に隠された泉を見つけるとき、正義への飢えと、世界平和のために他者とかわりたいという渇きが彼ら自身の中で大きくなっていくことでしょう。

わたしたちは思いと行いを通して、いのちへの献身を新たにしよう、絶えず招かれています。終末のときに注がれる祝福を、今ここで味わうのです。

神が治めてくださるよう祈り、働きましょう。
今日の働きと休息のうちに、みことばが息づきますように。
すべてにおいて内なる沈黙を保ち、
キリストとつながることができますように。
真福八端の精神、喜び、単純さ、あわれみに満たされますように。
(グランシャン共同体のシスターが日々唱えていることば)

祈り

わたしたちの父である神よ、
聖書を通してみことばを与え、
わたしたちを変えてくださるあなたを賛美いたします。
あなたの霊でわたしたちを導き、
自らの生き方を選べるようお助けください。
あなたが分かち合うことを望まれる幸いを、
わたしたちも味わうことができますように。

第6日

他者を受け入れる

「あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るように」
(ヨハネ 15・16 b)

創世記 18・1 - 15 アブラハムはマムレの櫨の木のところでは天使を出迎えた。
マルコ 6・30 - 44 イエスは大勢の群衆を深くあわれまれた。

黙想

キリストによってわたしたちが変えられるとき、キリストの愛はわたしたちの中でさらに大きくなり、実を結びます。他者を受け入れることは、わたしたちの中での愛を分かち合う具体的な方法にはかなりません。

イエスはその生涯を通して、出会った人を受け入れられました。イエスは人々の話に耳を傾け、彼らがどのような苦しみにあっても、ご自分に触れることをゆるされました。

パンを増やす福音の場面では、イエスは空腹の群衆を見て深いあわれみをお示しになります。人はだれしも食べ物が必要としていること、そしてご自分だけがパンへの飢えといのちへの渇きを真にいやすことができることを、イエスはお存じです。しかしイエスは、弟子たちなしで、また、彼らが差し出すことができる五つのパンと二匹の魚なしで、それを行おうとはされません。

イエスは今日でも、他者を条件なしに世話するご自分の協力者となるよう、わたしたちを招いておられます。見つめること、聞くこと、あるいはただそこにいること、それだけで自分は温かく迎え入れられていると感じさせることができます。わたしたちが自分のわずかばかりの力を差し出すと、イエスは驚くような方法でそれを用いてくださいます。

そのとき、わたしたちはアブラハムと同じことを体験します。与えることによって、受けるからです。他者を受け入れれば、わたしたちは豊かな祝福を受けるのです。

「わたしたちが迎え入れるのは、イエスご自身です。」(「フランスとイギリスのテゼの規則」(2012) p 103)

「日々わたしたちが迎え入れる人々は、わたしたちの中に、キリストとその平和を感じるでしょうか。」(*The Sources of Taizé* (2000) p.60 [植松功訳、『テゼの源泉——これより大きな愛はない——』プラザー・ロジェ、ドン・ボスコ社])

祈り

イエス・キリスト、
わたしたちは一緒にいる兄弟姉妹を十分にもてなしたいのです。
彼らの苦しみを前にして、
わたしたちが自分の無力さを痛感していることを、あなたは知っておられます。
それでもあなたはつねにわたしたちの先におられ、
あわれみのうちに、すでに彼らを受け入れておられます。
わたしたちのことばを通して彼らに語りかけ、
わたしたちの行いを通して彼らを支え、
わたしたち皆に祝福を注いでください。

第7日

一致のうちに成長する

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」

(ヨハネ 15・5)

一コリント 1・10 - 13、3・21 - 23 キリストは分けられてしまったのですか。
ヨハネ 17・20 - 23 わたしたちが一つであるように。

黙想

イエスは、ご自分の死の前夜、御父から託された人々の一致を祈りました。「世が信じるようになるために、すべての人を一つにしてください。」ぶどうの枝が木につながっているように、わたしたちもイエスとつながり、自分たちの間を流れていのちを与えてくれる同じ樹液を分け合います。

どの教派も信仰の核心へと、すなわち、キリストを通して、聖霊の内に、神との交わりへと、わたしたちを導こうとしています。その交わりを深く生きれば生きるほど、他のキリスト者と、そしてすべての人と、より強く結ばれます。パウロは、初期のキリスト教共同体の一致を脅かしていた態度を戒めています。彼らは自分たちのグループが絶対だと考え、キリストのからだの一致を傷つけていました。そうした場合、相違は互いの豊かさではなく、分裂をもたらすものとなってしまいます。パウロは極めて広い視野をもっていました。「一切はあなたがたのもの、あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものなのです」(一コリント 3・22 - 23)。

キリストは、わたしたちに一致と和解の道を委ね、わたしたちの祈りをご自分の祈りと一つにすることを望んでおられます。「すべての人を一つにしてください。……そうすれば、世は……信じるようになります」(ヨハネ 17・21)。

「隣人への愛を気軽に告げながら分裂したままのキリスト者、そうした嘆かわしい分裂の状態にあっても決してあきらめないでください。キリストのからだの一致を、あなたの悲願としてください。」（「フランスとイギリスのテゼ共同体規則」（2012） p .13）

祈り

いのちをもたらす炎、息吹である聖霊よ、
わたしたちのもとに来て、とどまってください。

一致への情熱を新たにしてください。

あなたのうちにある、わたしたちを結ぶきずなに気づかせてください。

洗礼によってキリストを着るものとなったすべての人がともに結ばれ、

自らを支える希望をあかしすることができますように。

第8日

すべての被造物と和解する

「わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである」（ヨハネ 15・11）

コロサイ 1・15 - 20 すべてのものが御子のうちに一つになります。

マルコ 4・30 - 32 からし種ほど小さい

黙想

「コロサイの信徒への手紙」の中のキリストへの賛歌は、全宇宙に渡る神の救いを賛美して歌うようわたしたちを招きます。十字架につけられ復活したキリストを通して、和解の道が開かれ、被造物にもいのちと平和に満ちた未来が定められます。

信仰の目で見れば、神の国はすぐそばにある現実であることが分かります。それはまだ、からし種のようにとても小さく、ほとんど見えません。しかし徐々に大きくなっています。この世界が苦境にあるときも、復活されたかたの霊は働いておられます。このおかたは、わたしたちがすべての善意の人と協力して、正義と平和をつねに求め、再び地球をすべての被造物の家とするために尽くすよう励ましておられます。

被造物が完全なかたちで神を賛美し続けることができるよう、霊の働きにわたしたちもあずかります。自然が傷つけられるとき、人間が打ちのめされるとき、復活されたキリストの霊は、わたしたちを絶望したままにされるどころか、ご自分のいやしのわざに協力するよう招いてくださいます。

キリストがもたらしてくださる新しいいのちは、どんなに隠されていても、多くの人にとって希望の光です。それは全被造物の和解の泉であり、わたした

ちを超越したところからもたらされる喜びもそこから生まれます。それにより、「わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされる」（ヨハネ 15・11）ようになるのです。

「聖霊を通してキリストが与えてくださる新しいのちを祝い、そのいのちがあなたのうちに、わたしたちのうちに、教会のうちに、そして世界と全被造物のうちに宿るよう、あなたは望んでいますか。」（グランシヤン共同体の信仰告白における第二の約束）

祈り

三位一体の神よ、

わたしたちを造り、愛してくださることを感謝いたします。

わたしたちと被造物のうちにいてくださることを感謝いたします。

あなたは这个世界に、愛のまなざしを注いでくださいます。

わたしたちもあなたに倣い、愛をもって世界を見つめることができますように。

正義と平和が栄える世界の建設のため、

み名の栄光のために働くことができますように。

グランシャン共同体と修道生活における エキュメニカルな活動**

1930年代、スイス・フランス語圏の改革派に属するグループ「モルジュの女性たち」は、みことばに耳を傾けるために沈黙がいかに重要であるかを再発見しました。祈るためにたびたび独りになられたキリストの模範に従ったのです。彼女たちは黙想会を開き、外部の人も参加できるようにしました。それから徐々に、ヌシャテル湖畔の小さな町、グランシャンで黙想会が定期的開催されるようになり、ついには祈りと受け入れのための常設施設が必要となりました。そこで、後にシスター・マルグリットと呼ばれる一人の女性がグランシャンに定住し、すぐに他の二人も加わりました。この黙想会の発起人であるジュヌヴィエーヴ・ミシェリは、このささやかな祈りの集いを始めるにあたって指導的役割を果たし、この三人のシスターを励ましました。そして、彼女たちの要望により、1944年に共同体の最初の指導者となったのです。

シスターたちには経験も祈祷書も共同体の規則もありませんでした。当時、改革派教会には修道共同体がなかったからです。そこで、他の教派の修道会に指導を仰ぎ、その宝を受け入れました。みことばと日々の黙想に根差した生活、共同体生活の方法、他者のもてなしかたなど、あらゆることを学ばなければならなかったのです。

最初のシスターたちは、キリスト者が分裂していることに苦しんでいました。とくにマザー・ジェヌヴィエーヴは、その苦しみゆえに、エキュメニカルで神学的な活動がいかに重要であるかを悟りました。その活動は、彼女がもっとも大切にしているものに基づいていなければなりません。それは、ヨハネ福音書の一節に照らした祈りです。「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります」(17・21)。彼女は、神が

すべてにおいてすべてとなられる日まで、キリストのうちに、キリストを通して実現する一致のために生涯をささげようと決意しました。ですから、共同体のエキュメニカルな召命は選択ではなく、たまもの、始まりに受けた恵み、貧しさから生まれた恵みだったのです。

その恵みは、いくつかの決定的な出会いによって確認され、育まれました。この誕生してまもない共同体にとって、その一つはポール・クチュリエ神父との出会いでした。リヨンのカトリック司祭である彼は、エキュメニズムと、このキリスト教一致祈祷週間の先駆者の一人です。彼はシスターたちと固いきずなで結ばれ、彼女たちの霊的な旅に真摯に寄り添いました。そのことは、彼らの間で交わされた書簡に見ることができます。1940年に彼がマザー・ジェヌヴィエーヴに宛てた手紙には次のように記されています。

「キリスト者が、分裂による鋭い痛みを感じなければ、また、熱心に祈り、自らを清め続けることを通して一致のために働くことを決意しなければ、黙想会は決して実現しません。……わたしにとって、一致の問題は、基本的かつ根本的に、内的生活の方向づけの問題です。ですから、わたしがあなたの要望と黙想会をどれほど大切に思っているか、お分かりになると思います。熱心に祈りましょう。それは、キリストにわたしたちの中に自由に入っていただくことです。」

もう一つの重要な出会いは、後にテゼのブラザー・ロジェと呼ばれることになるロジェ・シュッツとの出会いでした。彼は1940年にグランシャンを訪れました。彼の探求の歩みは、交友関係を保ち続けたシスターたちの歩みによって励まされました。彼らの一致のきずなは年月を重ねるごとに強まり、1953年にはさらに深まりました。その年に発表された「テゼの規律」と「テゼの務め」を、グランシャン共同体はすぐに取り入れたのです。ブラザー・ロジェは次のように記しています。

「一致への絶え間ない探求は、人間を調和させます。それは、思考に行動を、存在に行為を合わせます。自分自身の中でもっともよいもの、内奥の中心にあるもの、すなわち、わたしたちの中におられるキリストと一致しようと絶えず努力する限り、その均衡は保たれます」⁵。

その後すぐに、グランシャンのシスターは、テゼ共同体のブラザーやイエスの小さい姉妹の友愛会のシスターとともに、貧困地域にある小さな共同体、とくにアルジェリア、イスラエル、レバノン、欧州各地の労働階級地区などで、祈りと友情のささやかなしるしとして生きることを求められました。そして、地元の人々や教会とのきずなが深まるにつれ、普遍教会における典礼祭儀の多様性を見だし、他の宗教との出会いも受け入れるようになるのです。

グランシャン共同体のエキュメニカルな召命とは、キリスト者の間の和解、人類家族の和解、そして全被造物への敬意に基づく和解のために働くことです。グランシャンのシスターはとても早い段階から、その召命のためには何よりもまず共同体として、自分たちのうちに、自分たちの間で、和解を体現しなければならないことに気づいていました。第二次世界大戦後すぐに、設立当初からいたスイスとフランスのシスターに、さまざまな教派のドイツとオランダのシスターが（新たな進展に触発されて）加わり、その後インドネシア、オーストリア、コンゴ、チェコ、スウェーデン、ラトビアからもシスターが集まりました。現在、この共同体には約 50 人のさまざまな世代のシスターがいます。

洗礼を受けたすべての人と同じく、シスターたちは、自分の奥底ではすでにある状態、すなわち交わりの状態を保つよう求められます。自分たちの間の相違を受け入れることをまず学ぼうとしないなら、そのような状態であることなど、どうしてできるでしょう。相違は神からのたまものであると同時に、手ごわい課題でもあります。教派や言語、文化、世代の多様性にあって、この共同体は、多様性の一致を生きるという課題に自分なりのしかたで取り組んでいます。それには、祈りかた、考えかた、振る舞いかた、かかわりかた、さらには

性格などの多様性も含まれます。日々、ゆるしを生きることなしに、和解のために働くことなど、どうしてできるでしょうか。そのためにはまず、神のあわれみへの信頼のもとに、自分自身に働きかけること、そして、人とのかわりに働きかけることが必要です。すべてが、わたしたちの心の中から始まります。あらゆる分裂の根源がそこにあるからです。これらのもっとも深い傷は、いやしを与えてくださる神の平和を待ち続けています。ですから、わたしたちの間の一致は、聖霊がわたしたちの同意のもとに、わたしたちの生活をゆっくりと辛抱強く変えてくださった結果としてもたらされるのです。

時課の祈りは、グランシャン共同体の一日の根幹であり、共同体はそのために毎日、4回集まります。時課の祈りに助けられ、聖霊を通して、キリストのいのちを生きることができるのです。

グランシャンのチャペルの中心にある三位一体のイコンが、シスターたちを沈黙のうちに迎え入れます。そのイコンは、シスターたちが父と子と聖霊の愛の交わりにあずかるよう招いています。さらに、その愛を心の中ではぐくみ、自分たちの間や訪問者にも注ぐよう語りかけています。プレゼント交換が行われることもあります。「差し上げたものより、いつもたくさんのものをいただく」とシスターたちは嬉しそうに語ります。

こうした歓待に満ちた雰囲気、福音的非暴力を共同体に伝えた人々との驚くべき出会いを実現させました。ジーン・ゴスとヒルデガルド・ゴス夫妻、ジョゼフ・ピロネット、そして福音宣教に深く根差した「ベトザタ」の集いを立ち上げたシモーン・パコットといった人々です。また、シスターたちのエコロジーへの意識は極めて高く、有機栽培で野菜を育てたり、環境に優しい製品を使用したり、食事のとりかたや、旅のしかた、物品の管理方法、連帯のうちに生きる方法などを注意深く考えたりしています。だからこそシスターたちは、他の共同体やグループ、活動団体や献身的な人々——とりわけ近隣、地域内、国際的、エキューメンカルなレベルでの修道会や修道共同体とのネットワークや、和

解、正義、平和、環境保護に向けたエキュメニカル、または諸宗教間の対話や活動——との結びつきや交流を築くために心を配っているのです。

彼女たちは新しいものを喜んで受け入れています。ヨーロッパの他の多くの共同体と同様、活力の低下——高齢化という問題に直面し、創意工夫を求められています。設立当初のシスターたちが他の人々の助けに頼らなければならなかったように、今日のシスターたちもまた、人々を受け入れるために、外部からの助けを頼りにしています。ボランティアの人々は、祈りと労働の生活をシスターたちと分かち合っています。歓迎されるのはまず若者ですが、年齢に関係なく、生きる意味を探し求める、あらゆる大陸のすべての人が迎え入れられています。異なる教派のキリスト者、他の共同体のシスターやブラザー、ユダヤ教やイスラームなどの他の宗教を信じる人々、特定の宗教を信じない人々にも開かれています。このように、この共同体はすべての人の祈りの家、歓待と対話と出会いの場でありたいと望んでいます。

他の修道共同体の貧窮した状態により、新たな務めが始まることもあります。その一つは、信者の話に耳を傾け、その人が召命にどう応えたらよいか識別することです。互いに祈りの場、和解のしるしとなることができるのは、新たな恵みです。ですから、グランシャン共同体の一人のシスターは、4つの異なる共同体のシスターから成るエキュメニカルな修道女会（フランス）で6年間、生活しています。ここ数年、シスターたちは、3カ月ビザでイスラエルを訪れています。あるシスターは、イエスの小さい姉妹の友愛会に滞在し、そこで日々の務めに加わりました。それからまもなく、二人のシスターが聖ヨセフのカルメル会での生活を体験しました。今日、数人のシスターがテゼ共同体に臨時で滞在しています。彼女たちの新たな体験は、この共同体への新たなたまものとなるでしょう。

世界教会協議会（WCC）の活動は、グランシャンの祈りにおいて重要な位置を占めています。毎週月曜日の夕方に、シスターたちはWCCが提案したエ

キュメニカルな祈りのサイクルに従って、とりなしの祈りを唱えます。バンクーバー、ハラレ、ポルト・アレグレで開催された WCC の会議に参加する機会にも恵まれました。ここ数年間、祈りと歓待と友愛の小さな共同体であるボッセ・エキュメニカル協会にも、数カ月にわたって参加しています。

諸教会の和解に向けた道にのりにおいて、修道生活は——非常に隠されたものであるにもかかわらず——特別な存在です。修道生活は、復活したキリスト、つねに与えられている交わりのたまものをたたえて歌います。聖霊は、さまざまな人の顔やたまものうちに、この交わりのたまもの実を結ばせます。修道生活は生地の中のパン種、一致のパン種です。それは信仰の神秘の深みへと、継続的な回心と変容の道へとわたしたちを導くからです。またある状況においては、人が自分自身を越えるのを修道生活が助けることもあります。わたしたちが気づかないうちに、キリストのからだの他の部分に影響を与えることもあります。アンドレ・ルーフはそのことを次のように説明しています。

「分裂した教会にあって、修道共同体はその本性から、『だれのものでもない場所』、聖霊の場となっています。修道共同体は卓越したエキュメニカルな場となるべきです。それは、希望があればどこにでも存在する交わりの前表です。それがどこであれ、修道共同体は根本的に、正教会にもカトリック教会にも属しません。両者はいまだに一時的であれ、敵対しているからです。修道共同体はすでに、聖霊が力強くわたしたちを導く先にある、分裂のない教会のしるしとなっているのです」⁶。

詳細については、ウェブサイト（www.grandchamp.org）をご覧ください。

注)

1. この冊子の巻末にある共同体の説明と、ウェブサイト（www.grandchamp.org）も参照してください。
 2. グランシャン共同体とフランスのテゼ共同体は、発足当時からつねに強く結ばれていますが、それはグランシャンのシスターたちが、自分たちの規則を注（3）の冊子に基づいて定めたからでもあります。
 3. テゼ共同体のブラザー・ロジェ、*Les écrits fondateurs, Dieu nous vent heureux*（テゼ、2011年）95。
 4. エキュメニカルな祭儀の中で、このことばを唱えるよう提案します。（〇〇ページ参照）
 5. テゼ共同体のブラザー・ロジェ、*Les écrits fondateurs, Dieu nous vent heureux*（テゼ、2011年）121ページ
 6. アンドレ・ルーフ神父「聖ベネディクト年開始にあたっての講話」、1979年12月16日、ノートルダム大聖堂（パリ）
- * これらの賛美歌は、2021年キリスト教一致祈祷週間の草案を作成したグランシャン共同体によって提案され、その共同体の責任のもとに掲載される。
- ** このテキストは、2021年キリスト教一致祈祷週間の草案を作成したグランシャン共同体の権限と責任によってのみ複製される。

◇キリスト教一致祈禱週間のテーマ一覧（1968-2021年）◇

1968年、世界教会協議会（WCC）信仰職制委員会と、教皇庁キリスト教一致推進評議会が共同発行した冊子が初めて使用されました。

- 1968 神の栄光をほめたたえるに至るために（エフェソ 1・14）
- 1969 自由への召し（ガラテヤ 5・13）
- 1970 わたしたちは神の同労者である（一コリント 3・9）
- 1971 聖霊の交わり（二コリント 13・13）
- 1972 わたしは新しいおきてをあなたがたに与える（ヨハネ 13・34）
- 1973 主よ、祈ることを教えてください（ルカ 11・1）
- 1974 すべての舌が「イエス・キリストは主である」と告白するように（フィリピ 2・1-13）
- 1975 すべてはキリストのもとに（エフェソ 1・3-10）
- 1976 わたしたちはまことの姿になるよう召されている（一ヨハネ 3・2）
- 1977 ともに希望をもって屈せず（ローマ 5・1-5）
- 1978 もはや他人ではない（エフェソ 2・13-22）
- 1979 み栄えのため互いに仕えよう（一ペトロ 4・7-11）
- 1980 み国が来ますように（マタイ 6・10）
- 1981 一つの霊 多くの賜物 一つの体（一コリント 12・3b-13）
- 1982 主こそわがやどり（詩編 84）
- 1983 イエス・キリスト—この世の生命（一ヨハネ 1・1-4）
- 1984 主の十字架は一致への道（一コリント 2・2, コロサイ 1・20）
- 1985 キリストとともに死から生命へ（エフェソ 2・4-7）
- 1986 我が証人となれ（使徒言行録 1・6-8）
- 1987 キリストにあつてともに新しく（二コリント 5・17-6・4a）
- 1988 愛は恐れをとりぞく（一ヨハネ 4・7-21）
- 1989 キリストに結ばれて一つのからだに（ローマ 12・1-21）
- 1990 キリストの祈りのうちに（ヨハネ 17）
- 1991 すべての国よ、主を賛美せよ（詩編 117, ローマ 15・5-13）
- 1992 わたしはあなたがたとともにいる。だから行きなさい。（マタイ 28・16-20）

- 1993 聖霊の実はキリスト者の一致を生む（ガラテヤ 5・22-23）
- 1994 神の家族・心も思いも一つにして（使徒言行録 4・23-37）
- 1995 コイノニア・神にある交わり、お互いの間の交わり（ヨハネ 15・1-17）
- 1996 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている（黙示録 3・14-22）
- 1997 神と和解させていただきなさい（二コリント 5・16-21）
- 1998 “霊”は弱いわたしたちを助けてくださる（ローマ 8・14-27）
- 1999 神が人と共に住み、その神となり、人は神の民となる（黙示録 21・3）
- 2000 神はほめたたえられますように。神はわたしたちをキリストにおいて祝福で満たしてくださった（エフェソ 1・3-14）
- 2001 わたしは道、真理、いのち（ヨハネ 14・6）
- 2002 神よ、命の泉はあなたにある（詩編 36・6-10）
- 2003 わたしたちは、このような宝を土の器に納めています（二コリント 4・7）
- 2004 わたしの平和を与える（ヨハネ 14・27）
- 2005 教会の土台であるキリスト（一コリント 3・1-23）
- 2006 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる（マタイ 18・18-20）
- 2007 耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにして下さる（マルコ 7・31-37）
- 2008 絶えず祈りなさい（一テサロニケ 5・(12a) 13b-18）
- 2009 それらはあなたの手の中で一つとなる（エゼキエル 37・15-28）
- 2010 あなたがたはこれらのことの証人となる（ルカ 24・48）
- 2011 使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに一つ（使徒言行録 20・42 参照）
- 2012 わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます（一コリント 15・51-58 参照）
- 2013 神が何をわたしたちに求めておられるか（ミカ 6・6-8 参照）
- 2014 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか（一コリント 1・1-17）
- 2015 イエスは「水を飲ませてください」と言われた（ヨハネ 4・7）
- 2016 主の力あるわざを、広く伝えるために招かれて（一ペトロ 2・9 参照）

- 2017 キリストの愛がわたしたちを駆り立てています（二コリント 5・14-20
参照）
- 2018 主よ、あなたの右の手は力によって輝く（出エジプト 15・6）
- 2019 ただ正しいことのみを追求しなさい（申命記 16・20）
- 2020 人々は大変親切にしてくれた（使徒言行録 28・2 参照）

◇◇キリスト教一致祈禱週間に関する歴史上の重要な年◇◇

1740年頃 スコットランド	スコットランドで起こり、北アメリカ大陸まで及んでいった聖霊による働きに目覚めた人々がいた。それは諸教会を包む信仰覚醒運動の祈りであった。(メソジスト運動)
1820年 ジェームス・H・スチュアート	ジェームス・H・スチュアート神父の著作が出版された。 "Hints for the General Union of Christians for the Out-pouring of the Spirit"
1840年 イグナティウス・スペンサー	ローマ・カトリックへ改宗した、イグナティウス・スペンサー神父は、「一致のための合同の祈り(Union of Prayer for Unity)」を提唱した。
1867年 ランベス会議	聖公会の主教たちによる第1回ランベス会議が行われ、一致祈禱についての転換の前兆となった。(1920年のランベス会議決議では、「教会の再一致の訴え」を協議した。)
1894年 教皇レオ13世	ローマ教皇レオ13世は、聖霊降臨に関連して、一致のために八日間の祈りの実施を奨励した。
1908年 ポール・ワトソン	「教会一致のための八日間の祈り」が、ポール・ワトソン神父によって初めて行われた。
1926年 信仰と職制運動	信仰と職制運動は「キリスト教一致のための八日間の祈りの提案」を広める活動を開始した。
1935年 ポール・クトゥール	フランスのポール・クトゥールは「主の意志によってキリスト教が一致しようとする」祈りを基に包括した「普遍的なキリスト教一致祈禱週間」を提唱した。
1958年 "Unité Chrétienne"	"Unité Chrétienne" (フランス、リヨン市)とWCC(世界教会協議会)の信仰職制委員会は、祈禱週間のために資料を協同で準備し始めることとなった。
1964年 エルサレム	教皇パウロ6世と総主教アテナゴラス1世が、共にイエスの祈り「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17章)を唱える。
1964年 第二バチカン公会議	第二バチカン公会議の「エキュメニズム教令」ではエキュメニカルな運動の精神とキリスト教一致祈禱週間の遵守を促進することを強調した。
1966年 信仰職制委員会、一致推進秘書局	WCC(世界教会協議会)の信仰職制委員会とキリスト教一致推進秘書局(現教皇庁キリスト教一致推進評議会)は、祈禱週間テキストについて公式な協同の準備を開始した。
1968年 第1回教会一致祈禱週間	第1回「キリスト教一致祈禱週間」は、「信仰職制」のテキストに基づいて行われ、それはキリスト教一致推進秘書局と協同で準備された。
1975年 地方教会による一致祈禱週間冊子	地方教会のエキュメニカル・グループが作成した草案に基づくキリスト教一致祈禱週間の冊子を初めて使用。この年の草案を作成したのはオーストラリアのグループ。
1988年 マレーシア・キリスト教連盟	マレーシア国内の主要キリスト教教派の連合のマレーシア・キリスト教連盟が大会開会礼拝でキリスト教一致祈禱週間冊子を使用。
1994年 YMCAとYWCA	YMCAとYWCAが協力して1996年キリスト教一致祈禱週間テキストを作成。
2004年 キリスト教一致祈禱週間冊子	以後、キリスト教一致祈禱週間の冊子を、信仰職制委員会(WCC)と教皇庁キリスト教一致推進評議会(カトリック)が同一の体裁で協同制作・出版することが合意された。
2008年 100周年	キリスト教一致祈禱週間開始100周年(教会一致のための八日間の祈りが1908年に初めて行われた)。

<お願い>

この種の出版や今後の共働を推進するために、全国のキリスト者の皆様のご理解とご支援を心から期待しております。合同祈祷会の献金の一部、あるいは有志の献金を多少なりともお送りくだされば、事務局の活動の大きな励ましと支えになります。ご協力をお願い申し上げます。

日本キリスト教協議会

169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-24

TEL 03-6302-1919 FAX 03-6302-1920

郵便振替 00180-4-75788 『日本キリスト教協議会』

カトリック中央協議会

135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内

TEL 03-5632-4445 FAX 03-5632-4465

郵便振替 00130-6-36546 『宗教法人カトリック中央協議会一般会計口』
(通信欄に「キリスト教一致祈祷週間」と明記してください)

2020年キリスト教一致祈禱週間 献金リスト (敬称略)

〈カトリック中央協議会扱い〉(2019年9月1日～2020年9月10日)

青森市キリスト教協議会
 アトンメントのフランシスコ会
 アトンメントのフランシスコ女子修道会
 イエズ会 上石神井修道院
 伊東熱海牧師司祭会
 幼きイエズス修道会 仁川修道院
 オタワ愛徳修道女会
 お告げのフランシスコ姉妹会
 カトリック(横浜) 金沢教会
 カトリック北26条教会
 カトリック北上教会
 カトリック吉祥寺教会
 カトリック趣町教会
 カトリック坂出教会
 カトリック高幡教会・日本ホーリネス教団
 由木教会・日本キリスト教団 永山教会 エ
 キュメニカル一致祈禱集会
 カトリック長崎大司教区 エキュメニズム・
 諸宗教委員会
 カトリック那覇司教区
 カトリック名寄教会
 カトリック職町教会
 カトリック母間教会
 カトリック東室蘭教会
 カトリック彦島教会
 カトリック弘前教会
 カトリック福岡司教区
 カトリック本所教会
 カトリック水島教会
 カトリック水戸教会
 カトリック門司教会
 カトリック雪ノ下教会
 カトリック横浜司教区
 カトリック四ツ家教会
 カノッサ修道女会
 キリスト教一致祈禱週間(市川市)
 コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会
 花園町修道院
 サレジアン・シスターズ 大分修道院
 サレジアン・シスターズ 大村修道院
 サレジアン・シスターズ 守護の天使修道院
 サレジアン・シスターズ 聖ヨセフ修道院
 サレジアン・シスターズ 世田谷修道院
 サレジアン・シスターズ 玉造修道院
 サレジアン・シスターズ 扶助者聖マリア修
 道院
 サレジアン・シスターズ 別府修道院
 サレジアン・シスターズ 目黒修道院
 サレジアン・シスターズ 山中修道院
 師イエズス修道女会

シトー会 那須の聖母修道院
 志大・榛原地区キリスト教一致祈禱会
 シヤトル聖パウロ修道女会 九段修道院
 殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会
 純心聖母会 小野田修道院
 純心聖母会 ときま荘修道院
 純心聖母会 八王子修道院
 純心聖母会 本部
 ショファイエの幼きイエズス修道会 大阪信
 愛修道院
 聖心会
 聖ドミニコ宣教修道女会 東京修道院
 聖フランシスコ病院修道女会
 聖母被昇天修道会
 聖霊奉侍布教修道女会
 聖霊奉侍布教修道女会 金沢修道院
 高松キリスト教一致祈禱集会
 朝拝会全国連合
 奈良南朝祈禱会
 新潟キリスト教連合会
 日本基督教団いずみ教会・カトリック和泉教
 会 一致祈禱集会
 広島キリスト教一致祈禱集会
 福岡キリスト教一致祈禱会
 藤沢市内キリスト教連絡会
 ベタニア修道女会
 ベリス・メルセス宣教修道女会
 マリアの宣教師フランシスコ修道会 熊本修
 道院
 マリアの宣教師フランシスコ修道会 札幌修
 道院
 マリアの宣教師フランシスコ修道会 東京第
 二修道院
 マリアの宣教師フランシスコ修道会 東京第
 三修道院
 マリアの宣教師フランシスコ修道会 本部
 マリアの宣教師フランシスコ修道会 前橋修
 道院
 聖心の布教姉妹会 本部
 茂原祈りの集い
 山梨県教会一致懇談会
 鈴木崇代
 竹内久枝
 永井和夫
 堀津嘉子

〈日本キリスト教協議会扱い〉

